

貼付用局所麻酔剤による接触性皮膚炎に対する

貼用前ステロイド外用薬の効果

長崎腎病院

○吉田衣里子 中村真耶 道崎幸子 白井美千代 丸山祐子 船越 哲 原田
孝司

【背景】

穿刺時の痛みに対して使用される貼付用局所麻酔剤（リドカイン貼付剤）による接触性皮膚炎の報告があるが、一方速乾性のステロイドローション（以下フルメタローション）を、貼用前に塗布することによりこの発症を軽減する可能性がある。

【目的】

透析患者のシャント肢の皮膚状況を調査し、貼付用局所麻酔剤による接触性皮膚炎に対するフルメタローションの有用性を検討する。

【対象・方法】

当院で貼付用局所麻酔剤使用中の患者を対象とし、文書で同意を得た後、有症状者に対し皮膚肌色計、水分・油分計、かゆみスコアによる測定を行った。治療を希望した患者に対し、フルメタローションを塗布し、1か月・3か月・半年後に各皮膚パラメータ測定を行った。

【結果】

当院における貼付用局所麻酔剤の使用者は217名（59%）であった。平均皮膚水分は33%以下であり、健常人の標準値34～37%を下回っていた。有症状者は56名（15%）で、フルメタローションの治療希望者は9名であった。皮膚パラメータは経時的に改善傾向にあったが、有意差は得られなかった。

【考察】

今回の検討ではフルメタローションの治療効果の確認はできなかったが、症状のない患者も含め、皮膚乾燥の程度は強く、今後の課題と思われた。